

天明七年未七月日記写

七月十三日夕七ツ時

一 御上様御不例之所至<sub>而</sub>御大切

成御容体ニ付日置様

伊丹様御出立被遊候事

例之通出来之者御見立ニ

罷出候様被仰渡事

七月十五日夕五ツ時

一 御上様昨午ノ刻御卒去

被為遊候旨申来候由

被仰出書有之候事

十六日

一 御悔ニ勤来之者罷出候様

被仰付候事

同

一 町家<sub>ニ而</sub>も御悔申上来之者

鳥府へ

御悔申上候様申付ル

同

一 町売之義戸さし之内停

止被仰付事

十五日夕より

一 町廻り之次第

御奉行様

御目付様

年寄

十六日朝

大目付様

同昼過

御町奉行様

同日 年寄

同夕 大目付様

同夕 年寄

同夕夜半後

御奉行様

余ハ右ニ順し候ニ付  
写し写候事

十八日

- 一 今朝町中戸を明ケ候へ共  
私共義ハ格別故明ケ不申

差心得

尤別触口ハ同様奉心得候事

廿一日

- 一 明日より昼御下目付衆  
年寄相廻り  
夜分御目付様御奉行様  
御廻り之事

同夕

- 一 荒嶋より石参り夜中  
舟揚之義いかゝ候哉と灘町  
目代より伺出候ニ付其段  
御役所へ申上御聞届被  
仰付候事

同

- 一 會見郡大庄屋より別紙  
之通来状其段御伺  
申上候所大庄屋共寸志ニ  
致し候事故御差図ハ難  
被遊旨被仰渡其旨  
及返答事

廿二日夕

- 一 明廿三日伊丹十左衛門様  
御歸り被遊候ニ付例之通  
勤来之者御迎ニ罷出候様  
被仰渡事廻文出ス

廿三日

- 一 年寄差揃罷出候様被  
仰渡罷出候所別紙之通

被仰付夫々手当致し  
候事 別触廻文

月番目代へ申付ル

廿四日

一 明廿五日

御尊骸被為入候ニ付  
御用向数々別紙之通  
被仰付候事

廿七日

一 今日四ツ時分より新土手へ

出棺居候所八ツ時了春寺へ

御入棺被為遊候事

附帰かけ麻上下

着用ニ而年寄

別触之者左之通

相廻ル

御家老様

御目付様

御奉行様

其外付役様

鳥取より御出被遊候

御役人様へも罷出候事

同

一 御迎ニ出かけ博労町

端迄町見分致し候事

同

一 御入棺之節御迎席

より直様両側ニ立列

了春寺迄御供候事

但 年寄 惣目代

別触 勤来之者

同

一 御使者宿々之者<sub>江</sub>

入念御馳走振申上候様

被仰付其段夫々

目代呼申付候事

同

一 日雇頭人足以上拾一人  
宿無之ニ付東町申付ル

同

一 町廻り之義朝飯後

伊丹様

四ツ時年寄七左衛門

同夕大目付様

同夕年寄次郎左衛門

□

廿八日

一 年寄義御法事

○ 後迄昼夜町相廻り  
候様被仰付候事

同

一 御使者之義ハ諸事

半藏様乙右衛門様御引  
受之旨被仰渡事

但 御使者御参詣被遊度

案内之義被任候由

脇亭主より伺出其段

御役所へ申上候所前記

御兩人様御引受

之由被仰渡其旨

脇亭主へ申聞候事

廿九日

一 来ル二日之夕水夫舟

御用片原町舟目代へ

申付候様被仰付候事

廿九日

一 御使者其外此度御宿

被仰付候者共より御出之節

御帰之砌両度共年寄

役前へ達し□候事

廿九日

一 明晦日より来月二日迄

御法事御執行ニ付

別紙御書付有

別触へ廻文出ス

惣町へ申付ル

通子供之事

廿九日

一 参候帳三冊相認事

但 御家老様

御奉行様

年寄様

ベ三冊也

附年寄三人別段

最初ニ名前相認

候義先役故義ニ而

申出同席承知之上

此度も其通りニ相認

候事

廿九日夕

一 水灯之節町家灯籠

明し候様被仰付候事

別触廻文

惣町へ申付ル

一 別触并惣目代其外

勤来之者へ御非時

被仰付候ニ付御香典

壱匁ツ、包上書左之通

上 何某

右之通別触并惣町へも

為知候事、尤口上ニ而

晦日

一 朝四ツ時少早く参詣

然ル所御法事始り居申

直ニ御奉行様御揃

御逢被遊先規之通り

御帳前へ出候様被仰渡

御帳場へ参り夫より乍遠

御家老様へ御挨拶  
申上并御香典御帳前へ  
差出ス事

附惣目代其外勤来

之者三四人程ツ、参り

次第召連何役何<sub>与</sub>

申者<sub>与</sub>申候義御披露

いたし候事

晦日

一

此度ハ御非時被仰付

不残一緒ニ御搓出候事

御町奉行様御揃<sub>ニ而</sub>

御出被遊龜飯<sub>与</sub>御挨拶

拶被遊御非時御菓子

被仰付難有仕合奉存候旨

申上候所いづれ□も勝手<sub>ニ</sub>

相仕廻候様被為仰置候事

尤別触中ハ御法事

相済候迄相詰ル

一汁三菜

附御非時~~十菜三汁~~

御菓子二ツ盛

晦日

一

御法事七ツ時分相済

御使者方御組山本様

小原様御帰りに被遊候後

例之通御家老様御給

人様方御順番御焼

香相済候所<sub>ニ而</sub>玄閑<sub>ニ而</sub>

御奉行様御呼被遊候<sub>ニ付</sub>

○皆々相仕廻候様尚又別触之者

罷出候所○月代そり候様

且戸さし候事も今日

切<sub>ニ而</sub>明ヶ候様被仰付

其旨別触中へ申聞  
罷歸り候事

同

一 意味合有之由<sup>ニ而</sup>  
寺院方御組中ハ  
御参詣不被遊候事

八月朔日

一 朝四ツ時了春寺<sup>江</sup>  
参詣七ツ時帰ル、今日ハ  
別触中町代兩人計  
其外ハ参詣無之事  
今日も一汁三菜之  
御支度被仰付候事

同

一 後藤四人義ハ御扶持も  
頂戴致し居候事故  
御前へ御菓子献上  
奉り度旨先日已来  
御伺申上置候所寸志尤成  
義ニ候へ共夫々不及旨被  
仰渡候事

八月二日

一 今朝七ツ時より了春寺へ  
参詣四ツ時之御法事  
相濟御支度之分<sup>ニ而</sup>  
一汁五菜まんちう二ツ  
盛頂戴之事

同

一 御法事相濟候ニ付  
勝手ニ引取候様被仰渡  
水灯御供之義御伺申上候所  
夫々不及旨被仰渡  
夫より引取例之通御達ニ  
相廻り候事  
鳥取より御出被遊候御家老様  
方へも相廻り候事

同

一 引舟三艘片原町より  
相願則灘町目代へ  
申付候事

同夕

一 御紋付灯籠二張昼  
之内より鋳り立水灯之  
節ハ路路口へ御紋付  
大戸口へハ自分紋付一張  
又御帰之節ハ不残  
表へ灯し候事

四日

○一 今日より年寄惣廻り計ニ被仰付事

六日

一 惣町惣代年寄老  
出府御悔申上候様被仰付  
并町家勤来り之もの  
飛脚を以御悔申上候様  
被仰付候事

別触廻文

惣町へ申付候

宿油屋

与兵衛

八月九日

一 荒尾市正様御使者上下  
六人外式人御雇已上八人  
七月廿七日より八月四日迄  
宿へ金貳百疋脇亭主  
銀貳両

一 鵜殿要人様御使者  
上下九人 宿呉服屋  
伊兵衛

日限右同断

宿へ金貳百疋

一 津田亘様御使者上下



三人

宿近藤屋

市郎右衛門

七月廿七日より

廿九日迄

右之趣法正寺同目代より

書付差出し御役所へ差

上置候事

同

一 了春寺へ通子供  
之事

同

一 了春寺へ料理人  
三人差出し候事

同

一 水灯之節町裏見へ  
懸り掃除之事

同

一 水灯之節御使者  
御家来乙右衛門様半蔵様  
御家来 下宿式軒

片原町へ申付ル

外

了春寺家来衆宿  
内町へ申付ル